

キーワードは「つなぐ」「発掘する」「支える」

ひらのの魅力再発見!

都市景観資源 パネルディスカッション

8月24日、平野区民

ホールにて、都市景観資源パネルディスカッションを開催したところ、雨天にもかかわらず、多くの参加者にお越しいただきました。

平成24年度の平野区における都市景観資源の登録の際に、大阪市都市景観委員会委員を務めた小伊藤亜希子先生を基調講演の講師に迎え、パネリストとして、ご自宅が都市景観資源として登録された末吉勘四郎さんや平野郷HOPEゾーン協議会の松村長二郎さん、喜連環濠地区まちづくり研究会の天野治さんや辻江賢治さん、平野区誌編集に携わった大阪教育大学附属平野中学校教諭の小村典央さんが参加されました。

基調講演 小伊藤亜希子先生

大阪市立大学大学院生活科学研究科 教授

都市景観資源についての解説や大阪市都市景観委員会委員として平野区の都市景観資源の登録に携わった際のエピソードを紹介いただきました。また、大阪市北区豊崎の解体の危機に瀕していた古い長屋を改修することで、新たにそこで生活するようになった若者と古くから住んでいる方とのコミュニティが形成された事例についても言及いただきました。



パネリスト

末吉 勘四郎さん
坂上家七名

・平野区役所の職員から都市景観資源の指定のことを聞き、地域のためになるならと了承した。
・杭全神社の東側にある史跡・平野環濠跡を清掃する活動に8年前から取り組んでいる。最初は、40人程度の参加者数であり、自分自身も1年だけの取組みと思っていたが、参加された方から「次はいつやるんだ」と言われ、今では200人にものぼる参加者数となるほど広がっている。近所の小学生や仕事を抱えた方も参加するなど、皆さんのまちへの思いは大変ありがたく感じている。
・一方で、空き缶や吸殻ごみなどは史跡・平野環濠跡だけでなく、路上にも散見される。史跡・平野環濠跡草刈りおよび近隣清掃以外にも、平野区役所と協力して違う事業や活動をしたいと思っている。みんなでまちに貢献できることがあれば取り組みたいと考えている。



パネリスト

天野 治さん
喜連環濠地区
まちづくり研究会
会長



パネリスト

辻江 賢治さん
喜連環濠地区
まちづくり研究会
事務局長

・平成20年度、喜連村史の会が発足され、喜連のまちの歴史や成り立ちを掘り下げる活動を行ったことが取組みの契機であり、大阪市まちづくり活動支援制度を活用して平成22年度に喜連環濠地区まちづくり研究会を立ち上げた。
・具体的な活動は、講演会や他都市の見学会、喜連音楽祭、ニュースの発行などである。
・喜連のまちがどんなまちかを訪れた方にもわかっていただくための案内板の設置やまち並み保全策の検討も行っている。
・平野や喜連以外の地区にも、都市景観資源に値するものが多く存在するのに、登録されているものが少ないことが残念だ。今後も、行政が募集などについて十分な広報を行ってほしい。平野区全体を盛り上げていくためにも、5地区(平野、喜連、加美、瓜破、長吉)が集まり、平野区の景観について議論したい。



パネリスト

松村 長二郎さん
平野郷HOPEゾーン
協議会 会長

・毎月第4日曜日に、町ぐるみ博芸・博物館を開館している。
・平野郷HOPEゾーン協議会の取組みでは、多くの方がまちづくりに参画できるよう防災訓練を「ちびっこレスキューゲーム」と銘打って広報するなど、さまざまな工夫をしてきた。参加された方から「平野に嫁いできて、平野というよいまちが勝手にあるものだから思っていたが、住んでいる人がまちづくりを行っているおかげで、よいまちになっていると実感した。自分がまちをよくして、子どもたちに手渡していきたいと思い参加した」とのお声をいただき、励みになった。
・しっかりまちづくり活動を行い、成果を出せば、行政から声をかけてくるものだ。



パネリスト

小村 典央さん
大阪教育大学附属
平野中学校 教諭

・現在、子どもたちと地域をつなげ、関わりを持ってもらうための取組みをしている。例えば、あかる姫まつりや平野図書館での「こども連歌」、小学生対象のかるた講座などである。子どもたちがこれらの取組みを通じて、都市景観資源などに興味を持ってくれるのではないかと考えている。
・平野のまちは、どこか懐かしくてほっとする。暮らしやすい空間だと感じる。住む人にとっては、懐かしく安心できる空間が大切である。
・「平野区誌」「平野区誌拾遺集」の編集では、多くの古文書・古地図などの資料を目にした。昔のことを調べるためには、このような資料が地域に存在するかどうか重要である。それらを通じて過去の人々と現在を生きる私たちはつながることができる。都市景観資源も同様の意味を持っている。
・今回は平野と喜連が中心だが、その他の地域でも活動している人がいるはずである。行政の役割は、そういう人同士をつなげたり、外へ情報発信したりすることではないか。区民が中心となって取り組み、行政が介添える、その関係が大切である。



コーディネーター

平野区長 藤井清美

・平野区の役割として浮き上がってきたことは、区民の皆さんを「つなぐ」「発掘する」「支える」ことだと感じる。
・区民の皆さんが主役であり、行政は黒子の役割である。人と人のつながりを促進し、底上げを図るなどの取組みをしっかりと努めさせていただきたい。
・歴史やまちに愛着を持った方がお互いに意見交換でき、よりよいまちづくりに取り組む人を掘り起こし、つながりをつくることのできるような運動を行うなどの支援をしていきたい。
・ハード面の支援も大切だが、ソフト面の支援を行い、「つながるひらの」というキーワードで本日のパネルディスカッションをまとめさせていただきたい。
・今後とも、平野区のまちづくりにご協力を賜るようお願いしたい。

「都市景観資源」とは

地域の皆さんに親しまれ、地域の景観を特徴づける建築物や樹木等を大阪市都市景観条例に基づき市長が登録するものです。都市景観資源に登録することにより、広く市民の皆さんに知っていただき、地域の景観に関心を持っていただくとともに、地域の特性を生かした景観づくりを進めていく際の手がかりとして活用されることが期待されます。

大阪市では、都市景観資源の発掘のため「わがまち自慢の景観」を募集するなどし、大阪市都市景観委員会の審議を経て、合計15件(平野区内)の建築物等を都市景観資源に登録しました。



問合せ まちづくり推進室(政策推進) ②番窓口 ☎4302-9683